

## 人材育成

### ⑤公益財団法人北九州活性化協議会

「北九州地域産業人材育成フォーラム」(2017年優秀賞)

**受賞理由:**北九州地域の工学系教育機関と中堅・中小企業の連携を軸として、地域が一体となって産業人材育成の支援を行っている。産業集積の厚みを活かした人材育成を推進するだけでなく、企業の経営力強化に資する地域産業支援策となっており、産学官の連携強化による人材育成として、持続的に地域産業の活性化に貢献している。

#### (実施者)

北九州地域産業人材育成フォーラム(公益財団法人北九州活性化協議会)

#### (事業の背景及び経緯)

##### 1. 事業の動機

- 1) 経済環境の変化に伴う九州地域の産業基盤の脆弱化、生産年齢人口の減少、高齢化の進展等を踏まえ、20年後を想定した地域産業の成長基盤の構築のために、地域産業の中核を成す中堅・中小企業の雇用環境の改善、人材開発、イノベーション創出のための新しい環境開発など、産学連携による中堅・中小企業の経営力強化に向けた環境づくりが必要であったこと。
- 2) 北九州地域に立地する工学系教育機関には、知的拠点として地域を担う人材育成の役割を担うことが求められると共に、学生の実践的能力育成のため、産業界と協働したインターンシップ等の教育環境の開拓が求められていたこと。

##### 2. 事業の目的

- 1) 中堅・中小企業の経営力強化のため、大学、産業界、行政等がそれぞれの機能と役割を活かし、地域が一丸となって人を育て活用する地域連携型教育システムの構築をはかること。(高度人材育成プログラム)
- 2) 産学連携による人材育成を通じて地域の大学と中堅・中小企業の垣根を取り払い、中核技術人材のスキルアップを行い、中堅・中小企業のイノベーション創出基盤の構築を図ること。(社会人育成プログラム)
- 3) ものづくり教育及びキャリア教育の充実による次代を担うイノベーション人材の育成のため、北九州地域の産業集積を活用した産学連携による早期工学教育の実践的システムを構築すること。(青少年育成プログラム)
- 4) 上記の目的を達成するために、ステークホルダーの自律的連携による産業人材育成のための地域環境・持続的発展基盤を構築すること。(産業人材育成の地域クラスター形成)

#### (事業内容)

##### 1. フォーラムの概要

###### 1) フォーラムの目標

20年後の北九州地域の産業力・産業基盤の強化を戦略的目標とし、産学連携・地域協働で、既存の環境・システム等を活性化し、地域の中堅・中小企業の経営力強化と工学系教育

機関の高度人材の育成のための産業人材育成の地域システム(新しいソーシャルキャピタル)を構築すること。

2) フォーラムの運営組織

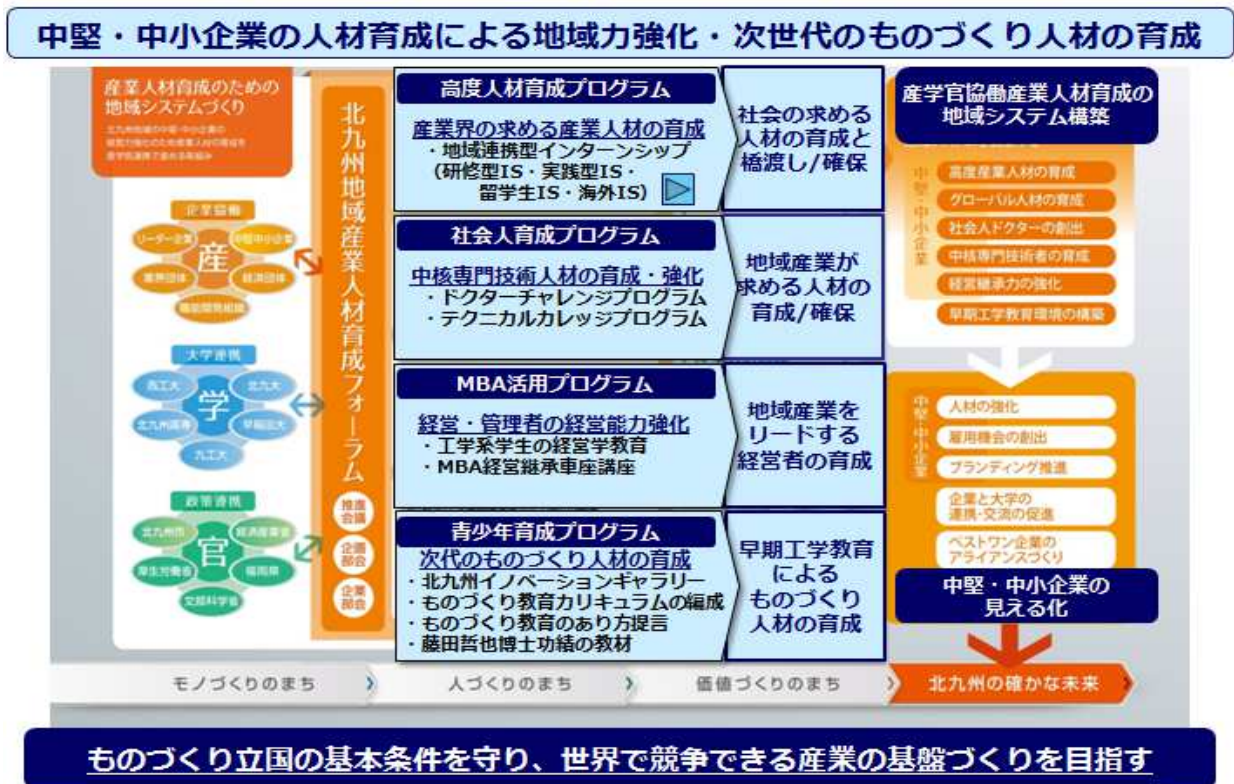
北九州地域の中堅・中小企業、工学系教育機関(大学・高専)、経済団体、行政(経済産業局、北九州市)等により構成する、自立型連携による機能別運営組織(推進会議・企画部会・プログラム別研究プロジェクト・企業部会)と、事業企画オーガナイザーの設置。

3) フォーラムの事業体系

高度人材育成プログラム(学生対象)、社会人育成プログラム(中核専門技術者対象)、MBA活用プログラム(経営、管理者対象)、青少年育成プログラム(小中学生対象)、地域クラスター形成プログラム(ステークホルダー対象)で構成。

社会人から青少年までを対象に、産業人材育成に係る5つの事業区分をもって、戦略的プログラムを企画・計画し、それぞれ事業プロジェクトを編成して運営。

2. 事業の概要



1) 高度人材育成プログラム(地域連携型インターンシップ事業)

北九州地域の製造業約1200社から選定した中堅・中小企業200社と、地域の工学系教育機関5校(九州工業大学、北九州市立大学、西日本工業大学、早稲田大学、北九州工業高等専門学校)が連携して「地域連携型インターンシップ(研修型<短期>、実践型<長期>インターンシップ)事業を実施。学生の社会人基礎力及び実践力の育成を行うと共に、事業実施企業の認知度向上(雇用環境の改善)と大学と中小企業との交流機会の創出を図る。

(1) 事業の内容

- 研修型(短期)インターンシップ事業の開発、事業化

- ・事業実施校：企業研修型(連携全校)、留学生型(九工大・北九大・西工大・早稲田大)
- 実践型(長期)インターンシップ事業の開発、事業化
  - ・ 試行実施状況：課題解決型(九工大工学)/地域開発型(九工大情報・西工大情報)
  - 業務体験型(九工大工学・北九大経済)/教育実習型(高専)

## (2) インターンシップ事業の運営プロジェクト

- 形態別インターンシップの運営システムの構築
  - ・ 研修型インターンシップ連携校コンソーシアムの編成  
(構成：連携校のキャリアセンター職員、学務課職員、担当教員)
  - ・ 実践型インターンシップ連携校研究プロジェクト  
(構成：連携校の担当教科教員・コーディネーター・実施企業代表)
- 「地域連携型インターンシップ」ビジネスモデル構築と体系的運営
  - ・ 大学別インターンシップ推進セミナー(ガイダンス)の実施
  - ・ 連携校合同インターンシップミーティングの実施
  - ・ 企業発見バスツアー(業種別・生産ライン別)の企画、実施
  - ・ 事業ステップごとの実態調査、アンケート(学生・企業・大学)の実施
- 地域連携型インターンシップコーディネートシステムの編成
  - ・ 企業の技術系管理職OBによる企業別専任コーディネーターを配置、多目的に活用
- インターンシップガイド及びマニュアルCD-ROMの作成、配布
  - ・ 研修型インターンシップガイド及びマニュアルCD-ROMの作成
  - ・ 実践型インターンシップガイド及びマニュアルCD-ROMの作成
- 地域連携型インターンシッププロモーション事業実施
- 専用ウェブサイトによるインターンシップ事業のソリューションシステム化

## 2) 社会人育成プログラム

中堅・中小企業の中核専門技術人材及び経営・管理人材のスキルアップ、リカレント教育を目的に、地域大学の制度環境を活用した「社会人育成プログラム」を開発し、地域システムとしての事業化と大学と中小企業との交流機会の創出を図る。

### (1) 北九州ドクターチャレンジプログラム

九州工業大学の「社会人プログラム」を活用した、中堅・中小企業の中核専門技術人材のスキル向上と社会人ドクターの取得促進によるリカレント教育の環境開発をする事業。企業内の研究課題の解決、大学との連携、協働関係の構築促進を想定。

### (2) 北九州テクニカルカレッジプログラム

九州工業大学の「学術指導制度」を活用した、大学教員の出張講義方式による中堅・中小企業の技術課題等をテーマにした中核・若手技術人材の研修・教育プログラム。事業実施を踏まえて、プログラムから発展する大学との産学連携(社会人プログラム就学。共同研究開発、技術アドバイザー制等)の促進への展開を想定。

### (3) MBA活用プログラム

北九州市立大学大学院マネジメント研究科(K2BS)と連携して実施する経営学実践講座の開発と地域システム化。

- モデル企業の経営分析とケーススタディを活用した経営・管理者対象の経営戦略講座（車座塾）の企画、実施する事業。
- MBAホルダー（中小企業経営者等）による技術系大学生を対象にした実践経営学講義（15コマ）を地域の他大学で展開する事業。

### 3) 青少年育成プログラム

中期的視点を持った理工系人材育成の必要性を確認し、工業都市-北九州ならではの早期工学教育の在り方の研究と産学官協働による教育システムを開発し、地域システム化を目指す事業。

#### (1) 早期工学教育の実施状況調査

産学連携によるものづくり教育システム開発のための基礎調査（先進事例の調査・北九州市内小中学校及び地域のモノづくり企業の早期工学教育の実施状況調査）を実施。

#### (2) 早期工学教育関連事業情報の専用サイト“かがたま”（科学の玉手箱）の設置

北九州地域の教育関係機関等が実施する早期工学教育関連情報を集約した専用サイト「北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま（科学の玉手箱）”」を設置。

#### (3) ものづくり教育の在り方に関する研究の実施

「北九州地域ものづくり教育の在り方に関する研究会（仮称）」を編成し、ものづくり教育の在り方と事業化について研究を行い、多様な産業・企業が集積する工業都市-北九州ならではの「産学連携によるものづくり教育システム」の構築を目指す

#### (4) ものづくり教育の教育コンテンツ及び教育システムモデルの研究・開発

「北九州イノベーションギャラリー（産業技術保存継承センター）」と連携し、ものづくり教育システムの構築に向けた企画研究と実証事業の実施、及びフォーラム連携企業による小中学校を対象とした出前事業及びインターンシップ詩行の開発、実施。

#### (5) トルネード博士—藤田哲也博士をコンテンツにした教材等の開発

シビックプライドを踏まえ、北九州市出身の藤田哲也博士（Mr.トルネード）をコンテンツとした授業の導入について提言し、小学校5年理科の授業における教育スタンダード記載（H27年度）と関連資料の収集、教材製作を実施。

### 4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

北九州市の「まち・ひと・しごと創生戦略」や「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）」等の地方創生戦略との政策連携や、北九州地域の産業人材育成に係るステークホルダーの組織化とアライアンスの拡充によるフォーラム事業の推進基盤整備の実施。

#### (1) 地方創生戦略等と連携したフォーラム事業の地域システム化の推進、整備

- COCプラス（北九州市立大学）事業、高専4.0事業等の教育機関と連携したフォーラム事業の推進

- 地方創生戦略及び北九州市、福岡県等地域自治体と連携したフォーラム事業の推進

#### (2) 北九州地域の産業人材育成に係るプラットフォーム機能、ソリューション機能の構築

- フォーラム事業のステークホルダーの会員組織化

- ・ 連携大学の大学会員化（H23年度実施）

- ・ フォーラム協働企業の会員組織化と企業部会の編成（H29年度予定）

- フォーラム事業協働企業のブランディングと多面的な活用
  - ・ フォーラム事業協働企業のブランディング（ものづくりベストワン企業）による新しい企業アライアンスの形成
  - ・ 「北九州ものづくりベストワン企業合同説明会」等の連携校の地元就職率向上支援事業の企画、実施
- 人材育成のステークホルダー協働による産業人材育成関連事業の企画、実施
  - ・ 「産業人材育成セミナー」「インターンシップ実践セミナー」「顔の見える産学交流会」等のインセンティブコンベンションの企画、開催
- フォーラムの企業コーディネート機能の多面的な活用促進
  - ・ インターンシップ事業の企業コーディネート機能を多面的に活用できる地域システム化の推進
- 北九州地域の産業人材育成関連情報のソリューション機能の構築
  - ・ フォーラムの専用HPへの産業人材育成関連情報の集約、発信
- 事業運営及び環境整備に必要な関連事項の専門調査及び統計の実施
  - ・ インターンシップ事業関連事項、就職関連事項等、フォーラムの事業環境を踏まえた目的調査及び専門統計の実施。

#### (成果)

20年後の北九州地域の産業力・産業基盤の強化を戦略目標とし、対象エリアを北九州市域に限定して、産学連携・地域協働による産業人材育成の地域システムづくりを目指す事業であり、産学官のステークホルダーの自立的連携・協働による事業の開発・運営により事業の持続的発展のための地域システム及び大学等の関連制度づくり等を行うことを中心に事業を推進しており、数値的成果はシステムの構築と連動して段階的に創出するものと想定。

#### 1. 地域連携型インターンシップ事業を通じた産学連携、雇用環境の開発、改善

##### 1) 北九州地域の中堅・中小企業のインターンシップ実施環境の開発、拡充

- フォーラム事業対象の中堅・中小企業のインターンシップ実施率 76% (152社/200社)
- 連携大学のインターンシップ実施率の向上
  - ・ フォーラムのインターンシップは、連携校のインターンシップ実施率の約 20%
- 実践型（長期）インターンシップ（長期、有給、テーマ設定等）の開発と協働実施による新しい産学連携システムと企業の経営環境の開発

##### 2) 北九州地域の中堅・中小企業の認知度の向上と雇用環境の改善

- インターンシップ実施による地元就職率向上効果（派生効果）
  - ・ インターンシップ参加学生の地元就職率 (21.7%) は、連携校の全体地元就職率 (13.7%) の約 2 倍（九工大は 3 倍）
  - ・ フォーラム事業協働企業の認知向上による連携校からの就職者の増大

##### 3) 地域連携型インターンシップのビジネスモデルの構築による産学連携の促進

- 事業協働・分掌による産学の多面的な交流ポイントの創出
  - ・ インターンシップ事業の運営を、大学、企業、コーディネーター、フォーラム事務局の連携で実施するビジネスモデルが、大学と企業の多面的な交流を創出。

- 大学のインターンシップ拡充ニーズの産業界側からの支援環境の構築
- 4) インターンシップの定義（目的・事業内容・質など）の明確化による、連携校における地域連携型インターンシップの制度的運用の推進、教育システムとしての確立
- 自律型連携によるインターンシップの地域システムモデルの形成と継承。
- 2. フォーラム連携校における制度改定、組織編成及び中期計画への組み込み等の実現**
- 1) 九州工業大学：中期計画への組み込み(地域連携型インターンシップ)/ 学術支援制度の改定（テクニカルカレッジ対応）
- 2) 全連携校：インターンシップ連携校コンソーシアムの設置/実践型インターンシップ研究プロジェクトの編成/推進会議（北九州地域の産業人材育成調整機能）
- 3. 地方創生戦略等における事業の評価と位置づけがなされたこと**
- 1) 「北九州・下関まなびとぴあを核とした地方創生モデルの構築事業（COCプラス）」との事業連携の推進
- 2) 「北九州市地域創生戦略-まち・ひと・しごと創生推進協議会」への参画
- 3) 「地方創生インターンシップモデル事業」等の政策関連資金の配分
- 4) 福岡県人材育成産学官コンソーシアムへの参画
- 5) 福岡経済同友会の地域活性化の提言における産業人材育成事業の推進の採択
- 4. 青少年プログラムにおける教育環境の改善**
- 1) フォーラムの提言により藤田哲也博士の偉業が小学校5年理科の教育スタンダードに採用されたこと。
- 2) 科学・技術関連イベントの地域情報マップ“かがたま（科学の玉手箱）”のウェブサイトを開発、運営システムを構築したこと。
- 3) 基本調査の実施、産学官の研究プロジェクトの編成等の「産学連携によるものづくり教育」に関する検討をする環境が整いつつあること。
- 5. 事業及び北九州市のプロモーション効果**
- 1) 各省庁（経済産業省、厚生労働省、内閣府等）及び自治体・大学等関係機関の視察・調査、各種報道機関による取材と報道実施、講演・出稿等による事業及び北九州の行政・産業環境のPR
- 2) 「イノベーションネットアワード2017」の優秀賞を受賞したこと

**(事業に取り組んで苦勞したこと)**

**1. 苦勞したこと**

- 1) 事業の範囲が広く（青少年から社会人まで）、事業の企画開発及び事業化における進捗管理が難しいこと。
  - プログラムごとにプロジェクトを編成して企画、運営をするシステムにとって、ステークホルダーの組織変更、人事異動等がシステム維持に大きく影響することなど。
- 2) フォーラム企画の事業化に必要な大学等の制度改定、体制整備、学内調整等、事業の実施環境づくりに時間がかかること。（この環境づくりが地域システム化に必須）
  - 企画、研究から事業化、さらに地域システム化を総括管理する専門オーガナイズ機能の保有・維持が課題。

- 3) 大学等におけるインターンシップ実施体制の未整備と就活型インターンシップの氾濫等により、教員、学生等の意識を変える等の根本的な課題解決のための環境づくりに時間を要していること。
  - 教育を目的として、大学と地域企業と協働で実施する連携型インターンシップという位置づけの確立が課題。
- 4) 中小企業経営者が、事業の意義とその効用を理解し、事業参画するモチベーション創発とインセンティブづくりが難しかったこと
  - 専門コーディネーターの機能拡充、リーダー企業の拡充、プロモーション企画の研究大学との多様な産学連携環境の開発など有機的な事業企画、運営計画の編成が課題。

## (事業の成功要因)

### 1. 事業の成功要因

- 1) 事業の目的と内容が、北九州地域の産業政策上の課題解決の方向性に合致しており、産学連携推進の機運と相まって、事業創設における地域的コンセンサスが取れたこと。
- 2) 事業の目的に対応するステークホルダーの絞り込みを行ったこと。
  - 事業のステークホルダーを、北九州地域の工学系教育機関と製造業の中堅・中小企業に絞り込み、事業の目的及び成果の明確化を図ったこと。
- 3) 既存の環境、システムの活用を前提とした事業企画、運営を行ったこと。
  - 新規の事業を興すのではなく、既存の仕組み及び環境を踏まえて、これを活用することを前提に、事業の企画、計画を行ったこと。(ステークホルダーが業務の改革、拡充の手段としてフォーラム事業を位置づけたこと)
- 4) 事業の基本条件である産学をつなぐためのコーディネート機能が存在したこと。
  - 北九州地域ならではの地場企業を退職した技術者を組織化し、対象企業発掘、事業調整等の専門コーディネートをする仕組みを構築したこと。
- 5) 大学、中堅・中小企業がCSVの理念をもって事業を協働する環境が構築されたこと。
  - フォーラム事業を、各ステークホルダーが自らの経営の一環として捉え、利害を超えたモラルをもって、事業に積極的に関与し、事業の実践的な運営が出来たこと。
- 6) フォーラムの運営組織である推進会議、企画部会及び研究プロジェクトの構成委員(産学官の代表者)がお役目ではなく、事業の検討、運営に当事者責任を持ってフォーラム事業の運営に当たったこと
  - 事業運営費は、大学会員、企業会員の会費と行政の公益負担金であり、ステークホルダーの協働事業として運営したこと
- 7) 北九州活性化協議会が指定管理(企画・運営・管理)する、次世代のイノベーターの育成のための専門機能である「北九州イノベーションギャラリー(産業技術保存継承センター)」(北九州活性化協議会が設置提案し、建設費2億円寄付)があり、早期工学教育推進の環境があったこと。
- 8) 事業の企画・提案者である、(公財)北九州活性化協議会(通称KPEC/地域企業847社が創設)が、地域の活性化、課題解決に強い調整機能を持っていたこと。
  - 事業提案、組織編成、事業の計画及びオーガナイズを、KPECが中心になって実施し産学官のステークホルダーの連携軸となって事業運営に当たったこと。

## 【受賞後の取組について】

1. **イノベーションネットアワード2017優秀賞受賞を活用したフォーラム事業の広報実施**
  - 1) イノベーションアワード2017」受賞プレスリリースの実施。
  - 2) 受賞をインセンティブにした連携校、関係機関の代表者等への産業人材育成フォーラム事業の内容説明
2. **「地方創生インターンシップモデル事業」(北九州市H28年度補正予算)を活用した「実践型(長期)インターンシッププログラム」の事業化計画を編成**
  - 1) 意向調査の概要と結果
    - ① 選定企業数：61社 ② 実施意向企業：30社 ③ 計画書提出企業：16社
  - 2) 事業計画の内容
    - ① 実践型(長期)インターンシップ研究プロジェクトの編成
      - ・ 実践型インターンシップの実施環境の研究、整備及び段階的な事業実施についての協議・研究を行う、連携校有志教員、実施企業代表及び事業コーディネーターによる研究プロジェクトの編成。
    - ② 実践型インターンシップガイド及びマニュアルCD-ROMの作成
      - ・ 「地方創生インターンシップモデル事業」予算を活用して、実践型インターンシップの実施における事業実施マニュアルを作成。
    - ③ H29年度における実践型(長期)インターンシップ事業の実施
      - ・ 事業の計画書提出企業(16社)を連携校に提示し、H29年度の事業実施計画を策定(5社~10社程度実施予定)。
3. **MBA活用プログラムの「MBAホルダーによる白熱教室」プログラムの具体化**

北九大大学院マネジメント研究科(K2BS)の教員とMBAホルダーにより構成する「マネジメント研究会」と連携して、工学系大学における経営学履修の仕組みとして「技術系学生を対象にした経営学講義(15コマ)コース」を創設し、H29年度に九州工業大学工学部での事業化に着手。
4. **フォーラム事業を通じた地元就職支援事業の企画、開催**

フォーラムのプラットフォーム機能の強化を目的として、フォーラム事業の協働企業と連携校による地元就職促進事業「第1回北九州ものづくりベストワン企業合同説明会」を開催する。